

## 第620回建設技術講習会 現場研修事業の概要

### 1. 都市計画道路3・2・101号大通り等 ～宇都宮市の自転車走行空間整備事業～

宇都宮市一の沢他

宇都宮都市計画道路3・2・101号大通りは、都市機能が集中する中心市街地を貫くJR宇都宮駅から宇都宮市西部地域に至る総延長約6.3kmの宇都宮都市圏の主要な都市骨格道路です。しかしながら、自動車、自転車及び歩行者の交通量が多く、慢性的な交通渋滞や、歩行者や自転車の安全な通行に支障をきたしていました。このため、栃木県では、交通渋滞の緩和による都市交通の円滑化、自転車・歩行者の安全かつ円滑な通行空間の確保、宇都宮市街地から観光拠点（大谷地区）へのアクセス向上を目的に、車道の4車線化や自転車通行レーンの確保等の整備を実施しています。

また、宇都宮市は、市街地を中心に平坦地が広がっており、日常的に自転車を利用するのに適した環境となっています。毎年10月に森林公園を舞台にアジア最高位のサイクルロードレースである「ジャパンカップサイクルロードレース」を開催しており、全国から多くの自転車ファンが訪れるほか、地域密着型のプロロードレースチーム「宇都宮ブリッツェン」の活躍などにより、スポーツとしても盛んな街であります。そのような中、宇都宮市においては、誰もが安全で快適に楽しく自転車が使える「自転車のまち宇都宮」の実現を目指し、自転車に関する総合的な計画として平成22年に「自転車のまち推進計画」を策定し、自転車走行空間やサイクリングロードの整備に取り組んでいます。

（視察キーワード：都市計画、安全対策等）



### 2. 平成27年関東・東北豪雨による栃木県内の被害

鹿沼市、栃木市、下都賀郡壬生町他

平成27年9月9日～10日にかけて、日本海を北上する台風第18号から変わった低気圧と、日本の東を北上する台風第17号の影響で、南からの暖かく湿った空気と東からの湿った空気が流れ込み、西日本から北日本にかけての広い範囲で大雨となり、特に北関東地方と東北地方では記録的な豪雨に見舞われました。栃木県内においては大雨の影響により各所で災害が発生し、特に鹿沼市では、期間降水量が526mmを観測し、50年に1度の記録的な大雨となりました。鹿沼市内を流れる一級河川黒川では、数ヶ所の堤防が破堤するなど、甚大な被害を受けました。また、栃木市を流れる巴波川沿川においては、河川からの溢水と内水により、住宅地に水が流れ込み、甚大な被害を受けました。

（視察キーワード：災害復旧、治水事業等）



### 3. 渡良瀬遊水地湿地保全事業

栃木県、茨城県、群馬県、埼玉県

渡良瀬遊水地は、利根川本川の左岸において渡良瀬川と思川、巴波川の三川が合流する位置にあり、茨城県、栃木県・群馬県・埼玉県の4県4市2町にまたがる、本州最大級のヨシやオギ主体とする氾濫源の湿生草原を有する総面積33km<sup>2</sup>の遊水地です。この遊水地は、利根川の治水対策上重要であると共に、自然環境に恵まれた広大な湿地空間としての役割も持っています。

国土交通省では平成22年3月に「渡良瀬遊水地湿地保全・再生基本計画」を策定し、今後、治水と環境の両立した遊水地の機能強化を行うこととしています。全国の氾濫源の湿地では、池沼が減少し、乾燥化が進む傾向が見られますが、渡良瀬遊水地でも乾燥化や環境の単純化が進んでおり、渡良瀬遊水地の治水機能の向上をふまえた湿地の保全・再生を進めるため、平成14年6月より「渡良瀬遊水地湿地保全・再生検討委員会」において湿地保全・再生の方策について、専門家による具体策の検討を進めてきました。今後、基本計画に基づき、渡良瀬遊水地の湿地を再生するため、掘削を実施して行きますが、良好な自然再生を着実に進めるため、順応的管理による段階施工で実施します。この順応的管理を行うためには、しっかりしたモニタリングを行い、自然再生に適した掘削の手法を常に追求める必要があります。適切なモニタリング計画とするため渡良瀬遊水地の環境に精通した地元の有識者による「渡良瀬遊水地湿地保全・再生モニタリング委員会」を設立し環境の保全を実施しています。

（視察キーワード：環境保全、治水事業等）

